

編集者 菅原春
 発行者 もり・きよし
 私立短期大学図書館協議会

1981. 7 No. 8

私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

これからの短大図書館のあり方を考える

安部 壘 巳

「今日、仮りに短大図書館の機能が停止したとしても、明日からの大学教育が実践できなくなってしまうような短大が果してどれ程あるであろうか」「短大教育がそれ程図書館の働きを必要としていないのではないか」

さまざまな実態報告の結果が示すこのような現況をどのように受けとめたらよいのか。この素朴なしかし本質的な問題、教育と図書館とのかかわりについて考えを深めてみたい。

1. 短期大学における教育とは

“当分の間”という暫定措置で発足した短期大学は、昭和51年の短期大学設置基準の法定化で定着した。それは、学制発足後30年の歩みの中で、内からも外からも新しい動きや期待が起きながらも高等教育の急速な膨張の過程で、当初の2分の1大学から脱皮して、独自の短期大学の存在意義の確立を図ろうとしたものであった。制定された短期大学設置基準は、短期大学の目的、性格など根本的な問題について、関係者の間で必ずしも十分な共通理解をもつまでには行かないまま、多様性と弾力性を目指して定められたように受けとられる。

高等教育の大衆化、普遍化と同時に短期大学に対する社会の要求の多様化は、もはや従来の伝統的な大学教育では質的にも量的にもこうした事態には適応し得なくなってきた。これからの短期大学には、時代の進展を素早くかつ深く観察しながら、社会の要請にこたえ独創的で新しい教育の開発を目指すことが求められる。

2. 短大教育を支えるもの（教室と図書館との融合）

高等教育の大衆化、普遍化は、アンチエリート主義に立つことや教育の画一化に対してのアンチテーゼから、学習する者の主体性を最大限に尊重するフレキシブルな新しい教育思想を生み出した。

「学習する者の主体性を最大限に尊重する」という、このような教育思想を基盤として、アメリカにおける大学教育改革思想の中で形成されたのが、ライブラリー・カレッジ思想といわれるものである。この思想は、「高

等教育段階における学習過程の唯一の最も重要な手段は“自学自習”であり、それを可能にするのは図書館である」とする理念を基盤としたもので、字義が示すとおり、大学（教室）と図書館の融合・合体を説くものである。この考えの根幹をなすものは、大学教育における図書館の役割に対する大きな意義づけである。もともと教育というのは、「教えること」「学ぶこと」の2つの機能が統合したものと考えられるが、ライブラリー・カレッジでは、「学ぶこと」の機能をより重視する。すなわち、学ぶ側に立って考え、学習者個々の能力に合わせ、その能力をひき出す教育ということになる。

このように考えを進めてくると、「自学自習」を支える場、ライブラリー・カレッジ思想の具現化された図書館構造についての認識が必要となる。ライブラリー・カレッジでは、この新しい構想による図書館のことを「カレッジ・ラーニング・センター」と呼ぶ。

3. 教育に役立つ短大図書館の3大要件

わが国では戦後教育改革の規範をアメリカに求めたが、「学生の自主的学習」と「刷新的な大学教育」を支えるカレッジ・ラーニング・センターの考え方のうちにも、これからの日本の短期大学図書館のあり方、目指す役割を見る思いがする。依然として低速を続ける現状、その改善への第1歩は、図書館の機能・役割に対する理解と協力の輪を図書館（員）自らの手で広げるところからはじまる。図書館への理解と協力は、まず信頼を得ることからである。図書館（員）への信頼は、図書館奉仕活動をとおしてのみ認識され、図書館の有用性が証明される。

第1の要件：学習用資料を充実すること。

学習のために必要とする資料については、如何なる手段方法を用いても必ず提供できるように準備する必要がある。学習以外の目的で利用される図書館資料は極く限られた範囲のものであり、また学習用資料の選択的な性格を考えれば、それらを準備することは例外を除いて不可能ではない。

第2の要件：利用指導・レファレンスの徹底

図書館利用者の多数派を占める学生グループはもとより、教師集団に対しての利用指導においても、それはあらゆる機会あらゆる手段方法を活用して行き届いたものでなければならない。そのことが図書館の信頼を得る最良の道となり、潜在的な利用要求の増大につながることになる。学生の図書館利用の実態が、約80%以上が学習との関連においてのみ必然的である点を考えれば、学生に対しては教育課程の中での利用指導が行われることが望ましいが、徹底したレファレンスは、必然的帰結として、授業科目の中に必要不可欠なものとなるであろう。

第3の要件：教師集団との関係を深める

図書館としては、個々の教師との日常的なコミュニケーションはもとより、大学の授業計画全体についてもあらゆる機会を結節点として充分密接な情報交換を行うことが大切である。図書館の役割や機能をとおして、教師集団の中に1人でも高等教育における図書館の役割を理解する教師が現われたならば、この関係は徐々に広がり、やがて教師集団と図書館との信頼関係を確立することとなる。

4. 研究活動への対応をどのように考えるか

研究にかかわる機能の網羅性を考えれば、学内の需要に応じた個別的な従来の情報・資料の提供には当然限界がある。さらに広く学術文献情報をめぐる様相は、大きく速く変化しており、今までの考えを延長するだけでは解決が困難である。そこで現在考えられているのが、学術情報の一元的システムである。学術審議会が答申したこの総合システムにも無関心でいるわけにはいかない。

また、従来の縦割りを少しでも解消しようとして設けられた国公私大学図書館組織の大学図書館協力委員会の相互協力体制づくりなど、短大図書館界としてもこれら外界の事情に大いに注目することが大切な時期である。

5. 図書館業務機械化への前提条件

前述の学術情報システムにおける構想は、当然個々の組織体の機械化・電算化を前提としたものであるが、一足跳びにこの状態にまでとはいかなくとも、日常業務の省力化に機械化は避けて通れない課題であろう。仮りに機械化を前提としなくても、業務の能率化・単純化を考えれば、当然、書誌記述を含めた標準化追求の姿勢が、したがってマニュアルの体系的な整備などが考えられなければならない。機械化成功の鍵は、業務の標準化にかかるといってもよく、極めて現実的な問題となって示される。業務の体系的整備・標準化について改めて考えてみる必要がある。

6. 良い図書館は良い教育を生み良い大学を作る

もともと大学という存在は、文献資料と共に発生し存在し続けて来たことを考えると、現在のように教育活動との間に見られる2心運動の様相は、原点から遊離しすぎてはいないか。大学の教育と図書館、学習と図書館との接合点。そこに現われる図書館活動を最も大切に考えたい。図書館の力は小さいがさほど大きくない力でも、分散させることなく、この1点に力を結集することによって効果的な働きは十分可能であると思う。

「良い大学」といわれる大学には、必ずといってよい程「良い教育」が存在する。「良い教育と良い図書館」のかかわりが実証される教育を図書館は積極的に作りあげる努力を惜しんではならない。(私立短図協常任理事)

この講演要旨は、去る5月29日ほるぶ中央研修センターホールで開催された私立短図協昭和56年度総・大会における記念講演「これからの短大図書館のあり方を考える」を講演者が会報掲載のため要約したものである。

昭和56年度総・大会記録

日時：昭和56年5月29日 9:45~5:00

場所：東京ほるぶ中央研修センター

参加者：出席者37+委任状111、計148名

I 会長挨拶 もり・きよし

II 講演会

講師：安部豊巳氏（別府大学短大部・本会常任理事）

テーマ：「これからの短大図書館のあり方」

おもな内容

1. 短大の歴史

2. 短大の教育的意味と役割

3. ライブラリィ・カレッジ思想にもとづく短大図書館のあり方、等々

III 第5回総会

1. 会長挨拶 もり・きよし

2. 議長選出

坂本龍三氏（北海道武蔵女子短大）を議長に選出し、議事に入った。

3. 会勢・昭和55年度事業報告(安部常任理事)

◎会勢

5月28日現在、212校を数える。その他区内訳は、北海道15、東北11、関東・甲信越67、東海・北陸24、近畿48、中・四国21、九州26となっている。昨年との総会以後の1年間で31校増加している。

◎昨年度総会

6月4日、伊藤伊別館で開催した。

◎『会報』

7月に第6号、12月に第7号を発行した。

◎『総覧』の集計・分析

4名の委員(委員長:芝原理事)が1年以上かけて、刊行できた。5月28日現在、180冊の売上げがある。

◎『短大図書館研究 第2号』

3月末に発行、2千300円の有料配布分は90冊売りあげている。

◎本部役員会(旧称:在京役員会)

年間8回開かれた。

4. 地区協議会活動報告

◎北海道地区(坂本理事)

8月に北海道図書館連絡会議主催で、140名の参加のもと、研修会と講演会(北島氏の「短大図書館のレファレンス」)を開いた。今年は9月に松岡氏の講演を開くなどの予定である。

◎東北地区(中村理事)

12月に桜の聖母女子短大で研修会を開いた。今年の秋、秋田で会合を開く予定である。

◎関東・甲信越地区(高尾理事)

9月、雑誌所蔵目録を刊行した。3月、もり・きよし氏の講演と総会を開き、会則を決めた。

◎東海・北陸地区(伊藤理事代理:林勇一氏)

4月に幹事会、11月に総会(講習・講演会同時開催)を開き、会報を3回発行した。今年は、幹事会、研究会、会報発行の他に、雑誌の目録作成を予定している。

◎近畿地区(井上理事)

雑誌の所蔵目録刊行がおもな事業であった。4月に総会・講演会、11月に見学会、3月に総会を開いた。今年は雑誌所蔵目録・補遺版の刊行などを予定している。

◎中・四国地区(竹田理事代理:沖田学氏)

加盟館(昨年度18)の名簿を作った。今年5月、受入雑誌についてアンケートを実施した。

◎九州地区(村上理事の書面による)

5月、設立総会を開いた。全国図書館大会で、地区内の3校が事例・研究発表をした。今年の活動は総会で決定する。

5. 決算および会計監査報告

◎昭和55年度決算報告(渡辺幹事)

予算書の形式を踏襲せずに、出版事業を特別会計として決算書を作成したことを了承していただきたい。特別会計の欠損分は、販売と広告の収入により解消している。

◎会計監査報告(宮島監査)

帳簿、憑証類に誤りのないことを報告する。今後、特別会計を設けることで、会計報告はより分かりやすいものになると思う。

決算および会計監査報告は承認された。

6. 昭和56年度事業計画(安部常任理事)

◎運営体勢の整備

地区活動を活発化させるため、研究活動助成をする。

◎『会報』の発行

8号を7月に、9号を12月に発行する。

◎『短期図書館研究 第3号』

年度末に発行する予定である。

7. 昭和56年度予算案(渡辺幹事)

加盟館が240に増える見込みで予算案を作成した旨の報告と説明がなされたのち、「事業計画」とともに承認された。

8. 規約改正

昭和57年度から、会費を8千円とすることと、会費に関する条文の変更が承認された。

なお、会費改定にともない、昭和57年度から、地区への交付金が、一律6万円に会員校1校あたり2千円を加えた額に増額されることになった。

※規約改正部分

第11条 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。会費は年額8,000円とし、本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり3月31日をもって終る。

付則2. この規約は昭和57年4月1日から施行する。

9. 役員を選出

高尾理事の提案で、会長選考委員会を設立し、選考委員会で森前会長を新会長に推薦することと、新監査に宮島前監査と松本久子氏(関東学院大学短大)を推薦することの提案があり、新会長と新監査2名が承認された。

10. 新会長挨拶(森会長)

現在4名の理事を7名に増員したいことと、幹事を増員したい旨の提案があり、理事の増員が承認された。

(新役員は10頁に掲載)

11. その他

◎図書館事業振興法(仮称)

人員、資料、機械化等について、短大図書館の要望を盛りこみ、同法事務局あてに提案書を提出することを決め

た。以上のような、長時間にわたる総大会を無事終了し、閉会した。

(進行：菅原、記録：網本)

私立短図協一般会計

昭和55年度決算

○収入の部

勘定科目	金額
会費	1,014,700
広告収入(特会へ繰入)	60,000
JLA助成金(特会へ繰入)	56,600
雑収入	3,711
計	1,135,011

昭和56年度予算

○収入の部

勘定科目	金額
会費	1,200,000
助成金	30,000
雑収入	4,500
計	1,234,500

○支出の部

勘定科目	金額
事業費 総会開催費	54,000
会報刊行費	110,000
出版事業特別会計へ繰入	325,523
地区交付金	442,300
全国連加盟負担金	10,000
会議費 全国理事会	24,000
本部役員会	25,290
事務費 消耗品費	4,600
通信費	34,478
会報郵送費	28,860
紀要郵送費	9,000
役員交通費	55,000
雑費	11,960
計	1,135,011

○支出の部

勘定科目	金額
事業費 総会開催費	65,000
会報刊行費	125,000
出版事業特別会計へ繰入	182,107
地区交付金	480,000
地区研究活動助成	140,000
全国連加盟負担金	10,000
会議費 全国理事会	30,000
本部役員会	30,000
事務費 消耗品費	10,000
通信費	45,000
会報郵送費	12,000
紀要郵送費	10,000
役員交通費	55,000
雑費	10,393
予備費	30,000
計	1,234,500

昭和55年度 出版事業特別会計決算

勘定科目	収	入	支	出
私立短大図書館総覧	売上収入 (@3,500×48冊)	168,000	発送経費 (@700×48冊) 印刷費(前年度未払分)	33,600 60,880
同上・集計分析編	売上収入 (@2,000×138冊) (@2,500×42冊)	381,000	発送経費 (@400×180冊) PRメール費 印刷費	72,000 50,192 44,700

勘定科目	収	入	支	出
短期大学図書館研究 No.1	売上収入 (@ 1,700 × 133冊)	226,100	発送経費 (@ 400 × 133冊)	53,200
			PRメール費	35,750
			印刷費(前年度未払分)	214,308
同上 No.2	55年度繰入金	325,523	印刷費	561,800
計		1,100,623		1,528,730

昭和56年度出版事業特別会計予算

勘定科目	収	入	支	出
私立短大図書館総覧	売上収入 (@ 3,500 × 25冊)	87,500	発送経費 (@ 700 × 25冊)	17,500
同上・集計分析編	売上収入 (@ 2,000 × 30冊) (@ 2,500 × 50冊)	185,000	発送経費 (@ 400 × 80冊)	32,000
			PR経費	44,000
短大図書館研究 No.1	売上収入 (@ 1,700 × 50冊)	85,000	発送経費 (@ 400 × 50冊)	20,000
同上 No.2	売上収入 (@ 2,300 × 180冊)	414,000	発送経費 (@ 400 × 180冊)	72,000
	広告収入	290,000	PR経費	70,000
			印刷費(前年度未払分)	428,107
同上 No.3	56年度繰入	182,107	印刷費	560,000
計		1,243,607		1,243,607

《地区協議会活動報告》

＜北海道地区＞

短図協北海道地区協議会では、さる4月17日(金)本年度の総会を開催(北海道武蔵女子短大において)した。総会は、議長に村田時康(北海道自動車短大)氏を選出して議事にはいり、昭和55年度道地区協の活動報告と決算報告を承認、ついで昭和56・57年度の役員選出を行った。その結果次のように選出された。

会長	道武蔵女子短大	坂本 龍三
監査	札幌大谷短大	柴田 泰
"	静修短大	溝渕 忠雄
幹事	小樽女子短大	佐藤 文義
"	北星女子短大	志関 義昭
"	道自動車短大	村田 時康
"	岩見沢駒沢短大	宮下 誠

ついで、昭和56年度の事業計画ならびに予算案を承認。今年度の主な事業としては、東京子ども図書館理事長の松岡亨子先生を講師に迎えて、第3回講演会を開催

する(9月12日)ことになっている。

特にこの講演会は、これまでと同じように北海道図書館連絡会議の後援も得て行われることもあり、他館種の職員からも期待されている。また地区活動の一層の充実と促進のために、今年度から各加盟館当り年額6千円を拠出することが参加者から提案され、承認された。これによって今年度以降の交付金の増額という明るい見通しなどもあり、安定した地区活動ができるものと期待している。さらに、北海道地区短大図書館所蔵の「逐次刊行物総合目録」(仮称)の編集・刊行についても意見がかわされ、秋に行われる研修会においてさらに具体的に検討することになっている。

＜東北地区＞

55.12.20 福島桜の聖母短期大学図書館(館長平田進教授)を会場校として、東北地区支部研修会が開催された。開催地仙台・青森・山形に次いで通算4回目の東北地区研修会であり、会場館桜の聖母短大今泉学長の「私も図書館の魅力にとりつかれた人間の一人である」という心あたたまる挨拶によって開会。平田館長の会場

館図書館についての解説後、館内見学が行われた。

次いで、中村地区理事の司会で第一研修課題「短大図書館におけるレファレンスのあり方」の討議に入り、伊藤司書（山形）の事例発表後、参加各館からの実施の実状と、質疑が行われ、本問題が短大図書館として、今後とも取り組まねばならない大きな課題であることが示された。

第二研修課題の私立短大協会主催の図書館担当者研修会の報告と、各館からの当面の問題点（アンケート）については、成田大会に参加された仙台白百合短大（幹事館）宮城 清館長の司会により、課題を整理部門に絞って報告と討議に入ったが、関連の問題が百出、特に時間を延長して問題に取り組み、多くの示唆事項が提示された。

研修会後、地区協議会総会が行われ、経過報告・行事予定・決算・予算案を了承、役員改選は全員再選された。

午後6時、全日程を終了。会場館挙げての御高配にあずかり参加者一同肝銘を深くした次第であった。

なお、東北地区の今後の命題は、東北地区圏という広大な領域をいかにして緊密な活動圏にまで持ってゆくか、ということであり、地区特有の課題の掘り下げ、分析について、一層自主的な歩みを進めなければならないという点である。

<関東・甲信越地区>

<総大会>

日時：56年3月24日（火）10:00～15:40

会場：日本図書館協会

参加館：加盟67館のうち57館（当日参加29館＋総会委任状28館）

I 開 会

片山喜八郎地区協議会会長が辞任されたため、日本経済短期大学の高尾清氏を臨時会長として、会をすすめることとなった。

II 講 演

「短大図書館の図書整理（分類と目録）雑感」

講師：もり・きよし氏（本部長）

- ① 分類と配架
- ② 印刷カードの利用（目録業務の省力化、集中目録作業）
- ③ 目録の編成と目録体制
- ④ 委託整理とその功罪
- ⑤ 私と体験（思い出）

講師の司書生活50年の体験をおりこみながら、整理作業の問題点、改善へのアドバイスなどを中心に語られた。

III 総 会

- ① 経過報告（安部・本部常任理事）
- ② 議長選出 宮島敬久氏（共立女子短期大学）を選出した。
- ③ 会則の討議と承認
- ④ 役員選出

会長 高尾 清（日本経済短期大学）

幹事（茨城） 原子 孝（常盤学園短期大学）

幹事（埼玉） 上沢田 浩（女子聖学院短期大学）

幹事（千葉） 古賀 実生（千葉経済短期大学）

幹事（東京） 中林美智子（目白学園女子短期大学）

幹事（静岡） 長沢 喬子（静岡英和女学院短期大学）

監査 井形道雄（武蔵野女子大学短期大学部）

- ⑤ 事業・活動の討議

- ⑥ その他

<東海・北陸地区>

<昭和55年度第2回研修会（東海地区）及び見学>

日時：昭和56年3月11日（水）午後1:00～4:00

場所：瑞穂短期大学

参加者：25名

- (1) 雑誌一覧作成についての質疑
- (2) 司書の専門性について
- (3) その他瑞穂短大図書館の施設、カウンター業務などの質疑

<会報5号 14頁 110部 56.3.5発行>

内容

1. 総会（55年度）議事
2. 講演会要旨
図書館についてのあれこれの模索（勅使逸雄氏）
3. 研究会
 - (1) 相互利用について
実状報告（3校）と質疑
 - (2) 総合雑誌一覧の作成について
 - (3) 自由討議

<昭和56年度第1回幹事会>

日時：昭和56年5月19日（火）午前10:30～12:00

場所：愛知淑徳短期大学

- (1) 昭和55年度事業報告および決算
- (2) 昭和56年度事業計画および予算案
- (3) 雑誌一覧の編成について

以上、報告ならびに提案について事業の一部が修正のうえ承認された。総会が11月に予定されているので会則第9条に基づき総会にかわって正式決定。

<昭和56年度第1回研究会>

日時：昭和56年5月19日（火）午後1:00～4:30

場所：愛知淑徳短期大学

参加者：30名

テーマ

- (1) 整理事務の省力化
- (2) 実情報告(3校)と質疑

<雑誌目録(東海・北陸編)編集の動き>

5.5.6.2 事務局として当地区は私立短大の数も少なく弱体館も相当あるので刊行を見送ってきた。他地区の刊行が進んでいるので審議する時期が来たと考え、文書による幹事会を開いた。その結果、賛否両論であった。

5.5.9.5 第1回役員会(幹事・委員)の討議の議題として取り上げた結果、時期尚早ではないかという意見があり、研究会の討議議題として見送った。

5.5.1.1.2.6 総大会の研究会の討議の結果、雑誌一覧という形で各館が作成して持ち寄ることになった(賛成多数)。雑誌一覧の記入要項に基づき(和雑誌56年4月末日、洋雑誌6月末日)作成し提出することになった。

5.6.4.3.0 和雑誌の集計、参加校25校、表にして、B4、155枚。一覧表にして各館のものを綴込んだだけのものでは利用が困難なので冊子目録にしてみるとタイトル数約1,400点になった。

5.6.5.1.9 56年度第1回幹事会で雑誌目録として編集することになった。現役員全員が雑誌編集委員になり、追加修正して3月末に編成を終る予定。

○今後の問題点

東海・北陸地区でタイトル数は和・洋両方あわせて約2,000タイトルである。冊子目録で刊行した場合、次のようなことが問題になる。

1. 利用価値(タイトル数が少ない小冊子になるため)
2. 経費について(刊行部数など、採算の見通しがつくかどうか)

未着手地区の雑誌目録作成についての動きがわからないが、全国的なものが本部で企画されるならば東海・北陸地区のような問題点が解消されるので未着手地区も編集に協力していただけるのではないかと思う。東海・北陸地区ではその時期が到来した時のために、原稿の編成を行っている。

<近畿地区>

<第9回研修懇談会>

日時：昭和56年3月27日

総会 14:00-14:30

研修会 14:40-17:00

会場：帝塚山学院短期大学

参加館：28館(46名)

<総会>

1. 会勢・活動報告

未加盟館に加盟のよびかけ・雑誌目録の補遺版への準備を依頼・複写依頼簡便化についての要望書の件経過報告・JLA評議員選挙に関する報告

2. 会計報告

3. 次期役員校の選出

理事校 平安女学院短大

会計監査校 京都芸術短大

幹事校 大谷女子短大・帝塚山学院短大

<研修会>

テーマ：マイコンと図書館

講師：中嶋正夫先生(大谷女子大学教授)

マイコンの基礎から応用までを実習をも交えて楽しくお話いただいた。今まで遠い存在であったマイコンが大変身近なものに感じられるようになった。

主な内容：

- 1) マイコンについての基礎的知識
- 2) コンピュータ操作について
- 3) マイコン実習
- 4) 購入事務のプログラムについて
 - フロー・チャートの説明
 - プログラムの作り方
 - 実習
- 5) 外部記憶装置の利用
- 6) 情報検索及び目録カードの作成について

<1981年度第1回幹事会>

日時：1981年4月17日

場所：大谷女子短大

出席者：井上宏二(平安女学院短大)

谷口泰枝(京都芸術短大)

前川和子(大谷女子短大)

瀬古輝子(帝塚山学院短大)

議題：1981年度活動方針

<1981年度活動方針>

- 前年度にひきつづき、未加盟館に加盟を呼びかける。
- 雑誌目録の補遺版を発行する。
- 年3回研修懇談会を開く。

<研修会懇談会>

第1回 7月30日(木)に、堺女子短大の浅野十糸子先生に「NDCの諸問題(仮題)」を、尾道書店の尾道潤一氏に洋書についての話を講演してもらおう予定。

第2回 10月下旬或いは11月上旬に図書館見学

第3回 3月下旬に総会及び研修懇談会
 <雑誌目録編集委員会>

5月14日、補遺版に関する第1回編集委員会を開き、名称、記入様式、今後の予定などを決める。

5月19日近畿86校に依頼状、記入様式を発送する。締切日は7月5日(土)。8月には原稿作成にとりかかり、9月中には印刷にまわす予定。

次回委員会は7月下旬に開く予定。

<中国・四国地区>

1. 私立短期大学図書館協議会中国・四国地区図書館協議会加盟館図書館員名簿(附私立短期大学図書館協議会規程)(昭和55年11月現在)を刊行、地区加盟館および各地区協議会会長館、事務局等に配布、館員名簿を通じ図書館間の相互利用等を促進することにした。(5.5.1.2.1.4)
2. 中国・四国地区図書館協議会昭和55年度収支計算書の協議会会長宛報告書の承認について加盟館に連絡。(5.6.5.1.5)
3. 中国・四国地区図書館協議会昭和56年度事業計画についてのアンケートを加盟館に依頼。(5.6.5.1.5)

4. 中国・四国地区図書館協議会加盟館図書館員名簿(昭和55年度)の追加訂正を加盟館に依頼。(5.6.5.1.5)

5. 短期大学図書館研究No.2号、日本図書館協会あんない等を加盟館に配布。(5.6.5.1.5)

<九州地区>

昭和55年度に九州地区協議会を通して、原稿執筆の依頼が次のとおりあり各館にお願いいたしましたところ快く引受けていただきました。感謝して報告いたします。

- 私立短期大学図書館協議会発行：短期大学図書館研究第2号掲載「短期大学図書館の教育的機能について」福岡女子短期大学図書館 下條瑞恵氏
 - 私立短期大学図書館協議会発行：短期大学図書館研究第2号掲載「大学図書館職員講習会(京都)に出席して」西南女学院短期大学図書館 野村英子氏
 - 私立短期大学図書館協議会発行：会報8号に掲載予定「短大図書館めぐり」福岡女子短期大学図書館
 - 日本図書館協会発行：図書館雑誌近刊に掲載予定「図書館員の生活と意見」活水女子短期大学図書館 遠山潤氏
- 以上

< 事 務 局 報 告 >

1. 全国理事会

昭和56年度第1回全国理事会

日時：昭和56年5月28日 午後5～7時

会場：東京渋谷 ロゴスキー

出席：会長・理事・地区理事・監査・幹事 16名

議事：もり会長のあいさつのあと、昭和56年度総会にかける議題について審議。

内容：1.会勢、事業報告、2.地区活動報告、3.決算および監査報告、4.昭和56年度事業計画および予算案、5.会費値上げ、6.役員人事等について報告・質疑の後、いずれも承認。

2. 本部役員会

○昭和55年度第5回役員会

昭和55年11月26日 於 共立女子短大

I 報告事項

- 1) 会勢
- 2) 本協議会出版物の販売状況
- 3) JLA施設会員選出評議員の件
- 4) 地区協議会の活動

II 協議事項

- 1) 「短期大学図書館研究No.2」編集の件
- 2) 関東地区協議会の人事の件 (継続)
- 3) 本部役員会の運営体制の件 (継続)

○昭和55年度第6回役員会

昭和55年12月22日 於 東洋英和女学院短大

I 報告事項

- 1) 会勢
- 2) 会報No.7の刊行
- 3) 地区協議会の活動

II 協議事項

- 1) 紀要No.2編集の件 (継続)

○昭和55年度第7回役員会

昭和56年1月29日 於 日本図書館協会

I 報告事項

- 1) 会勢
- 2) その他

II 協議事項

- 1) 紀要No.2編集の件 (継続)
- 2) 関東地区協議会創立総会の企画、運営の件

○昭和55年度第8回役員会

昭和56年2月12日 於 共立女子短大

I 報告事項

- 1) 会勢
- 2) 地区協議会の活動
- 3) その他

II 協議事項

- 1) 紀要No 2 の頒布価格及び方法の件
- 2) 関東地区協議会創立総会の運営の件 (継続)
- 3) 昭和56年度総会及び予算・人事の件

○昭和56年度第1回役員会

昭和56年4月2日 於 日本図書協会

I 報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 図書館事業振興法検討委員会への本協議会派遣委員について
- 3) 紀要No 2 刊行について

II 協議事項

- 1) 昭和56年度総会の運営の件
- 2) 昭和56年度事業計画および予算の件
- 3) 昭和56・57年度役員人事の件

○昭和56年度第2回役員会

昭和56年5月25日 於 日本経済短大

I 報告事項

- 1) 会 勢

2) 協議会出版物の販売状況

II 協議事項

- 1) 昭和56年度決算
- 2) 昭和56年度事業計画および予算案の件 (継続)
- 3) 昭和56・57年度役員人事の件 (継続)

○昭和56年度第3回役員会

昭和56年6月26日 於 日本図書館協会

I 報告事項

- 1) 会勢・事務連絡 (地区との)
- 2) 図書館事業振興法検討委員会の報告
- 3) マイコンプログラムの件
- 4) 会報8号の編集の件

II 協議事項

- 1) IFLA 1986年大会日本委員会の委員派遣の件
- 2) 本部役員の役割分担について
- 3) 幹事補充の件
- 4) 紀要No 3 の原稿募集の件
- 5) マイコンのプログラム頒布の件
- 6) その他

私立短期大学図書館協議会出版物案内

○私立短期大学図書館総覧

1979.3.31発行

B5判 700頁

頒布価格 3,500円 (送料共)

販売取扱：株式会社 新日本印刷

〒 105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電 話 03-503-0428

○私立短期大学図書館総覧 - 集計・分析 -

1980.10.31発行

B5判 66頁

頒布価格 2,500円 (送料共)

販売取扱：株式会社 新日本印刷

〒 105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電 話 03-503-0428

○短期大学図書館研究 年1回

1号 80.3.31発行

2号 81.3.31発行

B5判 90頁

頒布価格 1号 1,700円 (送料共)

2号 2,300円 (送料共)

販売取扱：株式会社 新日本印刷

〒 105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電 話 03-503-0428

○会 報 年2回

編集発行 〒 181 東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学部図書館内

私立短期大学図書館協議会

電 話 0422-45-4145

○関東・甲信越地区私立短期大学図書館雑誌紀要総目録 1980 兼目恵子編

55.7.31発行 B5 253頁 頒布価格 3,300円

発売：〒 328 栃木県錦町5-26 ふろんていあ 電話 0282-24-6081

○近畿地区短期大学雑誌目録 - 1980.3月末日現在 55.9.1発行

B5 194頁 頒布価格 3,000円

発売：丸善大阪支店または申込はお近くの丸善へ

昭和 56・57 年度私立短図協役員紹介

会 長 もり・きよし (青葉学園短大)
 常任理事 安部 豊巳 (別府大学短大)
 理 事 芝原 翠 (東洋英和女学院短大)
 菅原 春雄 (文教大学女子短大)
 綱本 正巳 (調布学園女子短大)
 有岡 章 (鶴見大学女子短大)
 片山喜八郎 (国学院大学栃木短大)
 高尾 清 (日本経済短大)
 監 査 宮島 敬久 (共立女子大短大)
 松本 久子 (関東学園短大)
 幹 事 渡辺 敏一 (東京女子大短大)
 杉山 敏子 (フェリス女学院短大)

本
部
役
員

地
方
理
事

北海道 坂本 龍三
 (北海道武蔵女子短大)
 東 北 中村 泰正 (山形女子短大)
 関東・甲信越 高尾 清 (日本経済短大)
 東海・北陸 伊藤 久祐 (愛知淑徳短大)
 近 畿 井上 宏二 (平安女学院短大)
 中・四国 竹田 俊一 (四国女子大短大)
 九 州 村上 博子 (西南女学院短大)

短大図書館めぐり - 第 8 回 -

福岡女子短期大学図書館

本学は、昭和41年4月、学問の神で有名な菅公ゆかりの地太宰府の小高い丘に創設され、家政科、食物栄養科、文科(英語英文専攻・国語国文専攻)、音楽科を有する短大である。

図書館は、本館の前庭、北西に位置し、昭和54年4月開館した。昭和48年3月に一度1階から3階へ移転し、今度の新図書館への移転で二度移転を経験した。

図書館は、鉄筋コンクリート造5階・塔屋1階の赤レンガ色の棟で、2・3階にある。窓外の眺望はすばらしく小鳥の声が聞こえる閑静な環境にある。

職員は、館長ほか7人。延べ面積は1,018㎡。2階にホール、ロッカー室、受付カウンター、目録コーナー、展示コーナー、ブラウジング・ルーム、参考図書コーナー、閲覧室、司書室など。司書室に複写機と簡易製本機を備えている。3階には閲覧室、特別閲覧室、第1・2視聴覚室、演習室など。視聴覚室にオーディオ・デスク、ステレオ、テレビ、英文・和文タイプライターなどの機器を備えている。テレビと共に育った世代の学生に、大いに受けて毎日利用者が殺到している。

今年度は、スライド作成機、マイクローダー・プリンター、カセット・プリンターを備え付ける。

書庫は2階と3階にあり、収容能力は10万冊。座席数は237席。

蔵書冊数は、約5万冊。視聴覚資料はレコード2,200枚、テープ330種、スライド90種など(昭和56年4月現在)。昭和55年度増加冊数4,900冊、雑誌245タイトル、新聞19種、紀要450タイトル。

現在の学生数は1,710人。昭和55年度利用状況は、学生入館者延べ68,224人、館外貸出冊数13,047冊、

複写利用枚数は13,188枚である。

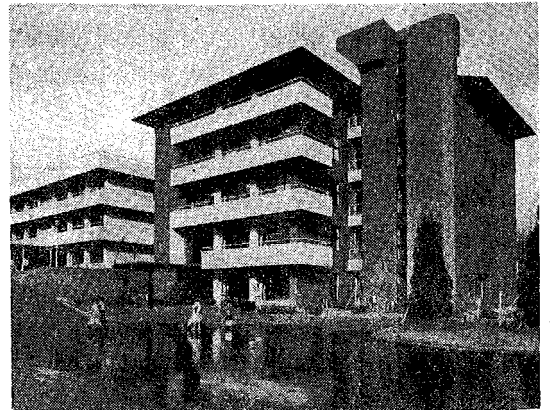
また、図書館では、新しい試みとして昭和55年1月から「地域文化の向上に役立てば…」と地域開放へふみきった。太宰府町民の18才以上の婦人を対象に実施、丸1年が経過した。利用状況は、4月現在、登録者39人、入館者145人、貸出冊数193冊。やはり30代、40代の婦人の利用が多く、家事、文学、芸術関係の図書やテープの貸出が多い。

新聞や図書館雑誌等に掲載され、ラジオでも放送されるなど、大きな反響を呼んでいる。

貸出期間は15日間、冊数は2冊。特に女性関係資料、郷土資料(主に太宰府関係を中心に)を積極的に収集して、資料の充実にも努めている。

学生が、家庭婦人と共に学習することによって、刺激を受け一層学習意欲をそそられ、生涯教育の指標を見だし、図書館のよき利用者とならんことを願っている。

(司書 手島 美智子)



短期大学図書館研究第2号目次一覧

印刷ユニットカードあれこれ	もり きよし	— 報告 —	
図書館七不思議	井上 如	大学図書館講習会(東京)受講報告	田中 伸子
短期大学図書館の教育的機能について	下條 瑞恵	大学図書館職員講習会(京都)に出席して	
短大図書館に関する実態調査報告1977			野村 英子
	浅野十糸子他	私立短期大学図書館界——昭和55年の動き——	
バーコードによる蔵書点検について	上沢田 浩		菅原 春雄
学外文献複写の一事例	藤尾 信治	公立短期大学図書館協議会	伊藤美代子
マイクロコンピュータによる貸出制御とそのプログラム第2稿	菊地 俊一	短大図書館員勉強会について	伴野安江他
短期大学図書館建築の試み—— Learning Center			
への指向	前川 和子		
短大図書館における機能性の建設にあたって			
	中村 泰正	現在頒布中：出版物案内9頁参照ください。	
短期大学図書館に関する文献目録追録 '80		第3号の原稿募集をしております。詳細は2号88頁ごらんくださって多数の応募をお待ちしております。〆切は一応56年11月末日となっておりますが、なるべく早くお願いいたします。	
	菅原 春雄		
短期大学刊行紀要類実態調査について			
	JLA短大協会		

<事務連絡>

I 入会手続

未加盟館が本会へ入会する場合、従来本部事務局(東京女子大学短大図書館内)へ手続、問合せをしておりますが、今後は地区理事校へ問合せ、手続をお願いいたします。当該理事校は名簿10頁をご参照ください。

II 会費納入先の変更

従来会費は直接本部事務局へ送金しておりましたが、今年度より、Iとともに会費納入も、地区理事校へお納めくださいますようお願いいたします。56年度会費は5,000円です。なお57年度会費につきましては、去る5月総会で、8,000円に値上げが承認されましたので、57年度予算編成時には、その点もお含みおきくださいますようお願いいたします。

<図書館関係行事>

- 日本私立短期大学協会
図書館実務担当者研修会
期日 5.6. 7. 20 ~ 24
場所 秋田市：秋田短大
- 東京都私立短期大学協会
図書館研修協議会
期日 5.6. 7. 24 ~ 25
場所 私学会館
- 全国図書館大会 (昭和56年度)
期日 5.6.10. 29 ~ 31
場所 埼玉 浦和市内

短期大学図書館名	〒	住 所	連絡責任職・氏 名
＜北 海 道＞			
専修大学北海道短大	072	北海道美唄市美唄1610-1	事務主任 安海 軍
＜関東・甲信越＞			
三育学院短大	298-02	千葉県夷隅郡大多喜町久我原1500	主 任 日井欣也
＜東海・北陸＞			
正 眠 短 大	505	美濃加茂市伊深町876	司 書 座馬淳子
名古屋栄養短大	451	名古屋市西区笹塚町2-1	館 長 舟橋英哉
名古屋聖霊短大	489	瀬戸市大字山口字北山220-194	司 書 水野壽子
山田家政短大	461	名古屋市東区葵1丁目17-8	司 書 伊藤嘉江
＜近 畿＞			
華 項 短 大	605	京都市東山区林下町3-456	図書課長 落合俊典
帝塚山短大	631	奈良市学園南3	図書課長 高浜洋一
日ノ本学園短大	679-21	兵庫県神崎市香寺町香呂	司 書 大塚さつき
＜中・四国＞			
松山商科大学短大	790	松山市文京町4-2	係 長 川口 隆
聖カタリナ女子短大	799-24	北条市北条660	館 長 村上芳夫
四国学院短大	765	善通寺市文京町3-2-1	図書課長 栗林美沙子
＜九 州＞			
活水女子大短大	850	長崎市東山手町1-50	司 書 遠山 潤

～原稿をお寄せください～

会報創刊以来連載として「短大図書館めぐり」「会員校の声」を毎号記載しておりますが、その他新館紹介、随筆、自由投稿の声の欄や資料重複交換コーナーなど、また資料紹介、小さなニュースどんなことでも結構です。会報は原則として年2回、7月と12月刊行ですので、〆切は別に定めませんので、思いつくまゝ、随時送付していたゞければありがたいと存じます。会報は会員校の情報誌として有効に利用されますよう、御協力、御支援をお願いします。

編集後記：会報8号をお届けいたします。56年度総会がはるぶ研修所で開かれ、例年にない活気が見られました。講演では本会役員の安部先生が、短大図書館のこれからの課題とかあり方など示唆してくださいまして、大変刺激になりました。現実とともに将来も考えて行かなければならない時期にきており、学術情報システムの在り方、相互協力によるネットワーク、それによる電算化、省力化も考えて行かなければなりません。

今、大学・短大図書館を越えた図書館振興法なる法案の作成とそれに盛込む内容が全体で、館種別で検討されており、国の助成と整備充実を期待しております。

(S)

発行所 私立短期大学図書館協議会 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1
東京女子大学短期大学部図書館内 Tel: 0422-45-4145